

最先端の国際教育と伝統の融合

～21世紀を生き抜く力 国際コース開設予定～



上野学園中学校

上野学園中学校・高等学校は1904(明治37)年に創立された上野女学校がルーツで、1910年に上野高等女学校となり、戦後の学制改革で中学校・高校になりました。1949年に高校に日本初の音楽科を設置、1956年には中学校にも音楽指導科を設置するなど、音楽教育に特色を持った学校です。創立100周年を機に改革に着手、2007年に新校舎完成とともに女子校から共学化、高校に特進コースを設置するなど、音楽教育を土台にしつつ、幅広い進路に対応する教育を行っています。創立120周年を迎える2024年度には、さらに国際コースの開設を予定し、21世紀を生き抜く国際的な力の育成に取り組んでいきます。

1. 一般的な英語力を世界に通用するレベルへ

2020年度から公立小学校でも英語を教科として学んでいます。2024年4月に上野学園中学校に開設予定の国際コースの大きな特色は、国内の小学校を卒業した、一般的な英語力の生徒を対象としていることです。6年間かけてCEFR(外国語運用能力の国際基準)B2またはC1の力が身に付くように育成していきます。高校卒業時には、英国ケンブリッジ大学傘下の教育機関 Cambridge International の認定校として、A-Level の取得を目指します。A-Level 取得により、国内主要大学のみならず、英国や米国等の大学への進学が可能になります。

主要なプログラムは次のとおりです。

- 世界で最も普及しているケンブリッジ国際教育プログラムを導入
- 英語と教科内容を統合して学ぶ CLIL (Content and Language Integrated Learning) を導入
- リベラルアーツ教育、地域のコミュニティーとのプロジェクトも実施

2. 英語で学び、グローバルな視点を養う

中学段階では、英語だけでなく、サイエンス、国際的視野、アート&デザイン、音楽、デジタル・リテラシーとコンピューティング、体育を、ケンブリッジの教育課程を用いて英語で学びます。また、数学は日本の教育課程の英語版テキストを使用。これにより、全授業の7割程度が英語での実施になります。国語、社会などの授業は日本語で行います。ケンブリッジ国際教育というグローバルスタンダードと、日本について学ぶことを両立しています。

また、必要に応じて日本語のサポートをするなどの支援を行います。

3. 英語を活用する教科横断の取り組み

毎年「ミュージックウィーク」に取り組みます。上野学園が長年培ってきた音楽教育をベースに、例えばシェイクスピアの作品を音楽的・アートの表現を含めた様々な角度から解釈し、上演することなども行います。一年間の学びで得た知識や技術を活用し、「学びの統合」を実践します。こうした取り組みにおいても英語をフルに活用。「学ぶ英語」から「活用する英語」の姿勢を身に付けていきます。